

建築研究所ニュース



平成 28 年 5 月 16 日

中南米諸国 8 ヶ国 16 名の構造技術者を対象とした「地震工学」に関する研修を、5 月から約 2 ヶ月間、国立研究開発法人建築研究所で実施します。

国立研究開発法人建築研究所では、中南米のチリ、コロンビア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、メキシコ、ニカラグア、ペルー、ベネズエラの 8 ヶ国から選ばれた構造技術者 16 名を対象として、昨年に引き続き中南米地震工学研修を 5 月 19 日から約 2 カ月間（短期コース）実施します。研修の総仕上げとして実施する構造実験は、つくばから場所を移し、エルサルバドルで実施します。

中南米（ラテンアメリカ）諸国は地震が頻発する地域ですが、耐震建築の技術普及が遅れており、地震による建物の崩壊でこれまで多くの人的・物的被害が発生しています。

2011 年 3 月に東日本大震災、2016 年 4 月に熊本地震という大きな地震災害を被った日本は、中南米諸国にとって同じ痛みを持つ国でもあり、また、彼らの目標ともなる耐震工学の技術と知識と経験をもっている国でもあります。この研修では、建物の耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を理解し、その普及のための行動計画を立案し着手することを目標としています。

研修をより効果的に実施するため、講義はスペイン語によって行われます。また、研修の最後に実施予定の構造実験については、現地の材料で現地の条件で実施することの重要性を鑑み、エルサルバドルで 2 週間かけて実施します。実験には、当所で実施している 1 年の研修コースで過去に学んだことのある帰国研修生が講師として参加します。実験終了後、研修の修了式もエルサルバドルで開催されます。

本研修によって、耐震技術に関する中南米諸国の構造技術者の理解が深まるとともに、各国の耐震対策が緊要と考えられる住宅、学校、病院等の建築物に関する耐震技術が普及することが期待されます。

<参考 1：開講式の日程>

中南米地震工学研修 開講式

日時：平成 28 年 5 月 19 日（木） 11：15～

場所：国立研究開発法人建築研究所 2 階講堂（つくば市立原 1）

<参考 2：研修の概要>

研修期間：平成 28 年 5 月 19 日（木）～ 7 月 22 日（金）

（うち平成 28 年 7 月 11 日（月）～ 7 月 22 日（金） エルサルバドル）

場所：国立研究開発法人建築研究所

参加者：16 名

(内訳：チリ (2)、コロンビア (2) ドミニカ共和国 (2)、エルサルバドル (3)、メキシコ (1)、
ニカラグア (2)、ペルー (2)、ベネズエラ (2) () 内は人数

主な講義内容

耐震設計、耐震診断および補強、免震・制震構造、東日本大震災の被害概要など

(内容及び開講式取材の問合せ先)

国立研究開発法人 建築研究所
(つくば市立原1)

所 属 国際地震工学センター

職 名 管理室長

氏 名 山下 崇

電 話 029-879-0678(直通)

e-mail t-yama@kenken.go.jp